

「ブックショップ」演劇鑑賞教室公演企画書

2024年度

ブックショップ



バスタ Inc.

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-5-302

Tel 03-6457-7099 Fax 03-6457-7098

Email basta@gol.com HP www.basta.co.jp/thebookshop/

この企画は、カナダ・ケベック< Le Théâtre Du Gros Mécano > (劇団グロ・メカノ) と日本< バスタ Inc.> (有限会社バスタ) の両国から協力し、幸せを一緒に広げていこうという演劇公演です。

この作品を、一言で表すとすれば「**演劇鑑賞の入門編**」と言っても構わないと思います。

音楽や美術等は、学校教育でも行われていますが、演劇は、自ら足を運ぶか、鑑賞教室等でしか、触れることはできません。料金も決して安くはなく、映像(DVD)や音楽(CD)のように、購入する事も出来ません。言い古された言葉ですが、本当の意味で、「一期一会」です。

- **演劇は、時間と場所と観客が揃って、初めて成立する芸術なのです。**
だからこそ、初めての経験が重要になるのではないのでしょうか。 —

「ブックショップ」を見ていただくと、違う国に住んでいても、違う時代に生きていても、人は、同じように恋をして、同じように幸せを感じ、同じように言葉を紡いでいくことに気づきます。

- **人として当たり前幸せを得るための、ほんのちょっとした勇気をくれる。**
そんなステキな物語、それが「ブックショップ」です。 —

演劇は、時代を超えて伝えられてきました。年代や世代を超えて感動していくことができるものこそが、本物といえるものでないでしょうか。本物を創作し、観ることが出来る機会を作りたいと、探し求めていく中で、この「ブックショップ」に巡り会いました。この作品を初めて観たときに感じたのは、人は、国籍、年齢、人種、性別、生活環境等とは、関係なく、分かり合えることができるということでした。ストレートプレイでは珍しいファンタジー作品です。日本では、ファンタジーは子供むけと取られがちですが、「ブックショップ」は保護者様からも高い評価をいただいております。初演、再演を観劇して下さったお客様からは、年齢を問わずに圧倒的な評価をいただきました。2012年、男子の中学・高等学校の演劇鑑賞教室でも、面白かったという生徒さんが84%以上という驚くべき結果も出ました。*最終ページにアンケート結果を掲載しております。

一人でも多くの生徒さんに観ていただきたく存じます。どうぞ、今までの学校公演では得られない本作品のご検討をお願い致します。

*「ブックショップ」の初演は、2005年。カナダ・オタワのナショナル・アーツ・センターで開催されたリーディング2006フェスティバルの一環として上演されたフランス語公演「La librairie」でした。その後2006年に、同じくナショナル・アーツ・センターとの共催で英語版「The Bookshop」を上演。観客からも、メディアからも高い評価を得て、今では英語の他に、フランス語、スペイン語があり、世界各国で上演され続けています。日本語版「ブックショップ」は、英語、仏語版に続き、2009年9月、東京で誕生しました。

*本公演は、ケベック州政府在日事務所の後援で実現しております。

あらすじ

幼い頃から本好きで想像力豊かで、とっても内気な女性ジェーン。ようやく夢がかなって素敵な本屋のオーナーに。しかし、そこは怖いウワサのためにお客さんが全くよりつかない本屋だった。

開店したばかりのジェーンの前に、かつてのオーナーと名乗るヴィクターが現れる。彼は正体は、ウクライナから来た美しい女性（ペトラ）への想いを口に出来ないままに死んでしまった“幽霊”だった。ヴィクターは、もうすぐやって来るペトラの臨終までに、その想いを書き上げないと本当に成仏できなくなってしまう運命。ところが、想いを綴った大切な本がどこかへ紛れてしまい、必死に探し続けている。

一方、ジェーンは隣のチョコレート屋さんのサミュエルが気になっているのですが、内気ゆえに告白するどころか話すこともままならない。そんなジェーンをヴィクターは、かつての自分と同じ間違いをさせてはならないと、勇気を出して告白させるべく説得。ジェーンがサミュエルに告白をしたとき、ヴィクターもペトラへの想いを告げることができ、2組はそれぞれ…

公演概要

タイトル	ブックショップ
種別	演劇：ストレートプレイ（ハートウォーミングコメディ）
上演時間	1時間20分（休憩なし）+Q&Aタイム15分（任意）
企画制作	劇団グロ・メカノ（カナダ・ケベック）&バスタInc.（日本・東京） 国際共同製作作品

スタッフ 脚本-マリー＝ジョゼ・バステリアン 演出-フレデリック・デュボア
舞台美術-エリーゼ・デュペ 衣裳-イザベル・セントルイス
音響-パカル・ロビテイユ 照明-フェリックス＝ベルニエ・ギモン
アーティストック・ディレクター-キャロル・カッシスタ
日本プロダクション&アーティストック・ディレクター 池亀誠一郎

出演 綾城愛里奈、助川玲、中宅間敏彰、間瀬富未子

*出演者は変更になる可能性もあります。

公演条件（暗転が必要となるため、基本的には、劇場での公演をお考えください。）

- 客席数 300～700人（*700人以上の場合はご相談ください。）
- 一行人数 9人・役者 4人・アーティストック・ディレクター 1人
・舞台監督 1人・照明 1人・音響 1人・制作1人
- タイムスケジュール・搬入・仕込み・場当たり 5時間
・本番 1時間20分 *Q&Aを除く
・撤去 2時間 *劇場の状況により多少の変更が出る可能性がございます。

■持ち込み機材

- 舞台 大道具一式、小道具一式、衣裳一式、
- 音響 音源
- 照明 GEL、星球一式

■現地必要条件（*状況に応じてアレンジをしますので、ご相談下さい。）

- 舞台サイズ 実行間口10～14m・奥行き6.5m以上・高さ4.5m以上
- 舞台備品 劇場備品にて対応可
- 音響 劇場備品にて対応可
*Q&Aをご希望の場合は、ワイヤレスマイクが追加になります。
*700名を超える場合は、集音マイクのシステムが必要となります。
- 照明 劇場備品にて対応可

上演料

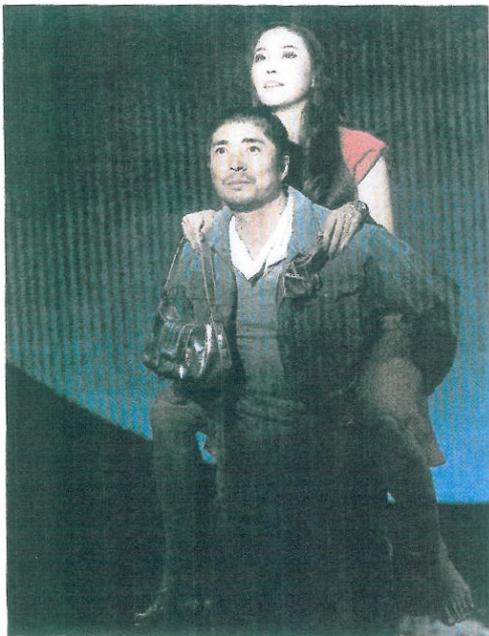
1. 劇場での鑑賞：学校で用意された劇場での公演

- ・基本料金：¥600,000.- + 消費税（観客数700名まで）
- *日帰りのできない場合は、別途交通費、宿泊費をご相談させていただきます。
- 追加料金・700名以上の場合は集音マイクシステム料：¥100,000.-+ 消費税
- 3ステージ以上の場合は、割引がありますので、お問い合わせください。
- *劇場費及び附帯設備費は別途ご負担お願いします。
- *劇団グロメカノとのグランドライセンス契約により、国内での著作権使用料は発生しません。

公演実績

- 2019年11月10日 倉敷市芸文館
- 2018年7月11日 安城市民会館
- 2017年1月8-11日 台東区ミレニアムホール
- 2014年9月24日 彩の国藝術劇場小ホール／9月27-28日 宝塚バウホール／10月11-13日 赤坂区民センター／10月27-29日 市川学園演劇鑑賞教室
- 2012年8月25-26日 宝塚バウホール／8月31日-9月2日 赤坂区民センター／9月17日 横浜市都筑公堂
9月29日 大阪アルカスホール／10月27日 埼玉城北中学・高等学校演劇鑑賞教室
- 2010年9月11日 横浜市泉区テアトルフォンテ／9月21日-22日 大阪サンケイホールブリーゼ
10月8日-9日 赤坂区民センター
- 2009年9月18～27日 東京シアターサンモール *初演

劇 評 読賣新聞 小田島雄志の芝居よければすべてよし 2009.10.7



「月のしずく」の井上一馬（手前）と安藤聖（撮影・江川誠志）

近ごろの若者は、生き方が、特に男女のつきあい方が、うらやましいほどうまくなり、ひとことでは言えは要領がよくなった。だからたまに不器用に生きる人を見ると、なんだかいとおしく思ってしまう。

そのひとつ。ミュージカルカンパニー・イツツフォーリーズの『月のしずく』（浅田次郎原作、佐藤万里脚本・作詞、酒井義久音楽、菊池准演出。東京・東池袋のあうるすぽっとで、9月16～20日上演）は、さすがに中にも成熟したステージを見せてくれた。千葉の田舎にあるコンビナート工場で荷役をしている辰夫（井上一馬）は、43歳の独り者。満月の夜、いつもの安酒屋で飲んだ帰りの道、国道を走ってきた外車からころがり出て、男の罵声とともになぐり倒された女がいた。辰夫はそのリエ（安藤聖）という銀座の女



小田島雄志の芝居よければすべてよし

不器用に生きる男と女



カナダ、日本共同製作の「ブックショップ」（撮影・池上直哉）

を、自分の貧しい借家に連れて帰り、傷の手当てをして、寝かせてやった。翌日、飲み仲間とその話をして、どんなにいい女だったか、いっしょに寝た体験談まででっぴあげて自慢したが、実は、その後も彼の家に居続けるリエに「抱いてよ」と誘われても抱けないでいる、不器用な辰夫だった。

そして十五夜の月が少し欠けて十七夜になった夜、気持ちをあざえきれなくなってきた辰夫、愛のプレゼントを差し出す彼を、リエ

は引っぱたいて拒絶してしまう。海を見に行く、とそっと出て行く彼を、彼女は追って行く、だろう。原作の最後の一行は、「少しだけ欠けてしまっただけで、今夜の月はまだ明るいよもあるが……」。井上一馬は純粋な男をふところ深い演技で観客の胸に刻みつけていたし、安藤聖も女心の揺れを新鮮に描いていた。

もうひとつ。カナダの劇団クロ・メカノと日本のプロダクション・パスタの共同製作による『ブックショップ』（マリー・ジョセ・バスタン脚本、長谷川仰子訳、フレデリック・デュボア演出。新宿御苑前のシアターサンモールで、9月18～27日上演）は、小品ながらすてきな舞台だった。

古い本屋を新装開店し、オーナーになったシェーン（麻乃佳世）の前に、昔この本屋のオーナーだったというマイクター（川井康弘）が現れる。彼は、愛をうちあげないまま別れた。ペトラ（明美見枝子）のことを綴った本の最終章が空白のまま、この世に心を残している幽霊だった。

そして彼は、シェーンが隣のサミュエル（溝呂木賢）と愛しいながらおたがいにその気持ちを口に出せないでいることを知り、サミュエルが引越すため別れのあいさつにきたのを最後のチャンスと、愛を告白するよう強くすすめる。シェーンは勇気をふるって……。不器用な女と朴訥な男を、麻乃佳世と川井康弘は切実に演じ、溝呂木賢と明美見枝子はそれをあたたかく受け、ほのぼのとして、いい。

学生時代、ヘミンクウェイの『武器よさらば』に感動したばかりは、「不器用さ」は」と決意したが、60年近くたった今でも不器用人間のままである。

（東京芸術劇場名誉館長）

過去の演劇鑑賞教室アンケート結果

とても面白かった：303人(34.2%)、面白かった：432人(48.8%)、どちらでもない：94人(10.6%)、あまり面白くなかった：39人(4.4%)、面白くなかった：17人(1.9%)

個人の感想（抜粋）

- ・今まで何度も演劇を見たが、四人で劇を作るというのはとても難しいので感動した。一人二役(?)を演じるのは着替えも大変だし、セリフも違うのでびっくりした。(中1)
 - ・とてもユーモアがあつて面白かった。とてもひさしぶりに演劇を見たのでとても面白かった。また今度見たいです。(中1)
 - ・演劇の中には笑いもあり感動もありで、とてもおもしろかったです。初めて生で演劇というのを見たので、とても感動しました。これをきっかけに、別の作品も見たいと思いました。(中2)
 - ・今回、初めて演劇を見ました。人物の感情などを、鮮明につくり出して、まるで映画を見ているような気分でした。あつという間に終わってしまい、もっと見たかったです。(中2)
 - ・演劇はつまなくて寝てしまうかと思いましたが、役者さんの演技がよくて、じっくり見ていました。もう一度見たいとひさしぶりに思いました。最高でした。(中2)
- 最初はどんな展開になるのかなと思ったが、いろいろな仕掛けがほどこされていて、面白く鑑賞することが出来た。小学校の時にも演劇鑑賞会はあったが、この今回のが一番最高の出来だと思いました。(中2)
- ・シナリオや演技力などすべてのレベルが高かった。メインテーマもしっかりしていて演劇として誰でも楽しめるようになっていた。自分も楽しめた。(高1)
 - ・話がとても分かりやすく、過去と現在と話が変わってテンポよく進んで全く飽きなかった。(高1)
 - ・内容も面白かったが舞台セット作り方が凝っていてどちらもすごかった。(高1)
 - ・普段演劇はあまり見ないので、とても新鮮な感覚が味わえた。また、内容も興味深く、他の劇もまた見たいと思わせるほどおもしろかった。(高2)
 - ・始まる前の印象としては「つまらない」でした。でもそんな印象は開始5分後には完全に脳裏から消え去り、集中して演劇を見ていました。見入っていた、という感想が個人的にベストなものだと思います。また見たいと思います。(高2)
 - ・まずセットがすごかったです。テーブルやイスなども本で出来ていて、本屋さんの雰囲気が出てました。演劇の内容もすばらしくて思わず終始みとれていました。できれば来年もぜひお願いします。(高2)

保護者アンケート

- ・学校鑑賞会ということで失礼ながら観劇姿勢を心配しておりましたが、大変礼儀正しく立派だったと存じます。作品が大変素晴らしく、生徒の心をとらえたのだと感じました。
 - ・とても楽しく鑑賞できました。演劇時間もちょうど良かったです。家に帰って息子とも楽しく話ができそうです。
 - ・とてもおもしろかったです。思ったより(始まる前のざわめきが大きかったので)静かに生徒達が鑑賞していたので、集中して鑑賞できました。物語がわかりやすかったので楽しめたと思いました。小学生の子を連れての鑑賞でしたが、小学生の子もおもしろかったと話しておりました。
 - ・中高生にとって良い内容のお話だったと思います。皆きちんと見ていたので(寝ている子もいなかったよう)観劇の態度も立派でした。
- *保護者は49人が鑑賞し、42人(85.7%)が、とても面白かった、又は、面白かったという評価でした。